

地域中核病院である自治体病院の健全経営をサポートする電子カルテシステムを構築

今、全国の自治体が運営する公立病院の約8割は赤字経営だといわれており、医療費削減や医師不足といった中で厳しい運営を強いられています。富士宮市立病院様は「自治体立優良病院総務大臣表彰（2006年）」「救急医療功労者表彰厚生労働大臣表彰（2007年）」を受けるなど、地域中核病院としての役割をしっかりと果たしながら黒字経営を続けている模範的な病院の1つです。富士宮市立病院様では経営支援を1つの目的としてNECの電子カルテシステムを導入されました。



富士宮市立病院
院長
木村泰三氏

富士宮市立病院
事務部長 兼
情報システム室長
広瀬辰造氏

お客様プロフィール

名称 富士宮市立病院
所在地 静岡県富士宮市錦町3番1号
病床数 350床
URL <http://fujinomiya.cococala.net/>

地域医療を守る“最後の砦”として堅実な医療を提供

富士宮市立病院様は、病床数350床、小児科、産婦人科、脳神経外科など14の診療科を持つ総合病院です。24時間365日の2次救急医療体制、重症患者に対応する高度な医療の提供、地域との医療連携の推進など地域中核病院の役割を担っています。地域の医療環境を含めた診療の現況を院長の木村泰三氏は次のように語ります。

「我々は富士宮市の唯一の総合病院であり、自治体病院として地域医療を支える“砦”として責任を持って患者さんを診療することが使命の1つです。医業収支の黒字を続けてこれたのは、2次診療圏の人口約15万人に見合った350床という適正な病床数だったことと、医師をはじめとするスタッフの努力の成果で、平均在院日数12日弱、病床稼働率85%以上という理想的な診療を実現しています。ただ静岡県は、東京に近いことも

あり医師不足とは無縁だと見られがちですが、実際は人口比の医師数は全国でも下から数えた方が早く、我々も例外ではありません。昨年、医師の過重労働を防ぐため内科を予約制にするなど、厳しい運営を迫られています」

経営支援にフォーカスして電子カルテシステムを導入

富士宮市立病院様では、電子カルテシステム「MegaOakHR」を導入し2008年1月から稼働しています。

「病院経営の側面から見れば電子カルテは大きな投資ですが、病院として、電子カルテのクリニカルパスやToDo機能を活用した安全で確実な医療の提供によって、地域住民へのサービスの向上を図ることは、当然だと考えています。さらに、システム化によって多忙な医師・看護師の業務をサポートしています。実際に現場で使用してみて、電子カルテは情報の共有や医療安全の面で大きなメリットを感じていますので、さらなる機能の発展に期待します」（木村氏）。

今回の電子カルテの導入は、他社製のオーダーリングシステムからのリプレイスでしたが、NECが選ばれたのは経営支援に結びつくシステムだったからだと言います。

「導入の決め手になったのは、電子カルテと物流管理が連携した経営支援システムのコンセプトです。従来の病院の経営支援システムは、部門別の収支管理や比較を目的にするものがほとんどです。しかし、公的医療機関には、不採算であっても社会的使命として取り組むべき医療がありますし、さらに『診療報酬点数』という“公定価格”に左右される仕組みの中では、診療科ごとの収支を比較しても意味はありません。我々がNECのシステムに期待したのは、物品の仕入れから請求までを把握して、これまで曖昧だった院内の物流を正確に管理し病院運営の効率化を図ることでした」

物流管理システムと連携して“請求漏れ”を把握

富士宮市立病院様では、以前から院内の物流管理に着目し

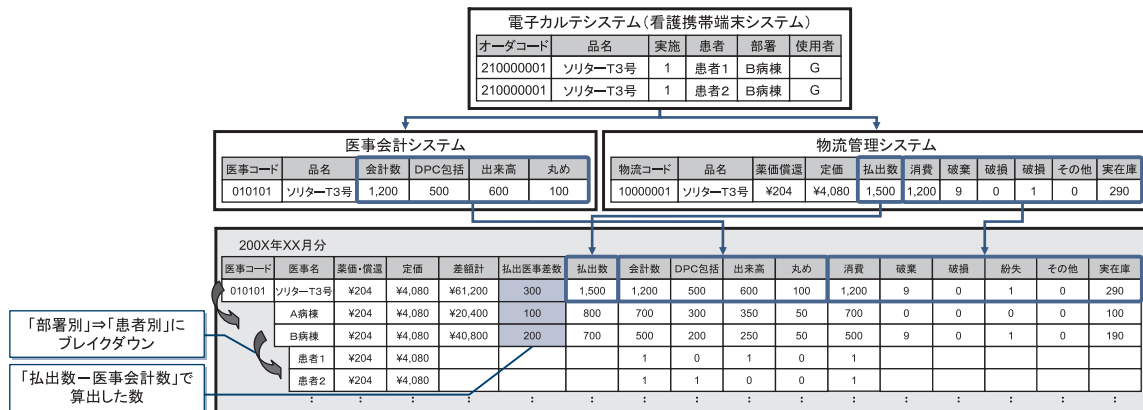


図 経営支援システムのデータフローイメージ

て病院の収支改善に取り組んでいました。病院の物流管理の問題点は、診療材料の購入・在庫管理のデータと診療行為に基づく保険請求のデータのミスマッチによって、いわゆる“請求漏れ”が発生していることでした。

「我々は請求漏れを防止するために、年2回、物品購入帳簿と請求情報の突合調査を実施しました。物品の各部門への払出記録と診療科での消費状況、保険請求の状況を洗い出し、問題点があればその原因まで追及しました。この作業には、事務スタッフの大変な時間と労力、看護師などの各部門の協力が必要でしたが、その結果、大きな効果を上げることができました」

木村氏によれば、1本1万円の薬剤が年間1,000本使われているにもかかわらず半分しか請求されていないというような例が数多くあったそうです。

同病院には、MegaOakHRと物流システムとして「MegaOak-M3」、PDAとバーコードを使って情報入力を行う看護携帯端末システム「らくらく看護師さん」が導入されています(図)。電子カルテの導入を担当された事務部長兼情報システム室長の広瀬辰造氏は、システムのポイントを次のように語っています。

「病院で取り組んできた経営支援のコンセプトを実現できる電子カルテを持っていたのは、NECだけでした。バーコードを使った看護師の実施入力によって、物流管理システム、医事会計のレセプト請求データがリンクして、部署別、患者別に払い出し、消費、会計データの把握が可能になりました。これによって、請求漏れを防ぎ、多くの労力と時間がかかっていた作業の省力化が可能になりました。さらに院内の在庫状況の確認なども容易に行えるようになりました」

最後に今後の展望について木村氏は「電子カルテによって請求漏れの把握ができることは直接的な収益の改善になりますし、院内の運用の問題点が簡単に把握でき経営改善や運用の見直しにつながります。今後は蓄積された各種のデータを分析して、さらなる病院運営の省力化・効率化に活かしていきたいですね」と語りました。

FOCUS POINT

●院内物流管理に着目した病院の収支改善への取り組み

電子カルテシステム(もしくは看護携帯端末システム)で入力される実施情報を発生源として、物流システムの消費データ(もしくは払出データ)と医事会計の請求データをリンクさせることで、部署別、患者別に払い出し、消費、会計データを把握することができます。

(1) 品目名称の整合

各部署で流通している名称と医事請求名称との整合機能。

(2) 払出単位・消費単位・医事請求単位の整合

品目ごとに単位・数量を換算する仕組み。

(3) 部署の整合

物流で払い出す部署と医事請求の部署との細かさの違いを吸収する仕組みや、物品を払い出した部署と実施する部署と異なる場合の整合機能。

問合せ先

NEC 医療ソリューション事業部

TEL:03 (3456) 6156 (ダイヤルイン)

URL:www.megaoak.com

〒108-8420 東京都港区芝五丁目29番23号 (明生田町ビル)

※記載された会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。